



# 金沢子ども科学財団だより

## 退任の挨拶

公益財団法人金沢子ども科学財団  
理事長 中村 信一



子どもたちに「科学するよろこびと楽しさを」をモットーに平成12年に設立された金沢子ども科学財団の理事長に林前理事長から引き継ぎ平成21年に就任しました。

この5年間に平成22年には財団設立10周年を迎え、平成23年には当財団は公益性が認められ一般財団法人から公益財団法人に移行認定され、社会的信用度は飛躍的に向上しました。また、平成24年には「広坂子ども科学スタジオ」で平成19年開始以来2万人目の参加者を迎えることができました。このようないくつかの節目に立ち会えたことを幸運に思うとともに、多くの方々のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

当財団は今年で14年目ですが、金沢市から引き継いだ事業が二つあります。一つ目は「児童科学教室」です。これは昭和40（1965）年金沢市内の小学校の理科教諭の有志が課外での理科教育を行おうと立ち上げたもので、初期の頃の修了生は60歳前後に達し、それ以後の年代の方々ともども、科学技術創造立国を標榜する日本の基盤を支える人材として活躍されています。この児童科学教室は今年50周年を迎えます。二つ目は「金沢市小・中学校児童生徒科学研究作品展」です。おそらく60回以上になると思われるこの事業は、小、中学校から提出された児童・生徒の科学研究作品を財団で審査後、全作品を展示するというもので、毎年、小、中学校あわせて1000

点前後の応募があります。優秀賞受賞作品は石川県の作品展に出品され、そこで上位賞を獲得した作品は全国展に出品されます。金沢市からの作品は全国展でもしばしば上位賞を受賞しており高く評価されています。これは一つ目に挙げた「児童科学教室」の活動が学校教育にも反映された結果だと考えられます。

財団発足直後、上記2事業に加え、「中学校サイエンスクラブ」、「おもしろ実験・観察教室」、「交流事業」、「サイエンスインターン」、「ジュニア科学者育成講座 中期」、その他いくつかの事業を開始しました。その後、平成14年には「出前科学スクール」、「科学研究口頭発表会」、「角間の里山自然学校」を、平成17年には「算数・数学チャレンジクラブ」を立ち上げ、平成19年には算数オリンピック等に対応する講座として「オリンピック支援講座」を開始しています。平成18年には「ジュニア科学者育成講座 長期」を、さらには平成19年には「広坂子ども科学スタジオ」を、平成24年には地元の「産業・文化・教育から科学を学んでみよう」を開始しています。このように積極的に新規事業の開発に取り組むとともに既存の事業でも内容の吟味を絶えず行い改良してきました。財団が認知されるのに伴い、参加者も増加傾向にあります。このような事業を支えているのは、小・中・高から大学にいたる先生方や在野の理科研究者の指導であり、大学生や大学院生の積極的な協力によるものです。財団発足時の中学生は20代後半になり大学を卒業して数年というところですが、財団の社会的評価を高めるためにも彼らに活躍していただきたいと願っています。

最後に、理事長を退任するにあたり、金沢市、金沢市教育委員会、教育界、経済界、産業界など社会全体が活動を支えているこのような財団のますますの発展を祈念するとともに、皆様のこれまでのご協力、ご支援に感謝と御礼を申し上げ、ご挨拶と致します。

## 平成25年度 実施事業の報告

### おもしろ実験・観察教室

財団の実験室や野外での活動を通して、物理・化学・生物・地学の各分野の教室を実施しています。3年生と4年生は年12回、5年～中学生は年10回の教室を毎回募集して実施しています。広坂子ども科学スタジオを卒業した未来の科学者の皆さんに参加いただきました。これからも科学好きな子ども達にたくさん参加いただければと思います。



モーメントやてこの原理がわかったし、またちがう実験をしたい。テキストも少しむずかしくてすごく楽しかったです。



家や学校でできない事ができた。学校で習っていないけれど、圧力について分かったのでよかったです。



クワガタがとれると思ったのにカブト虫がいっぱいいた。ふしぎな実などいろいろあってびっくりした。



化石をいっぱい見つけた、家にかえてじっくりみたいと思う。今日は、みんなと仲良くできてよかった。

## 年間講座

### 児童科学教室

1年間の受講生を募集して行う科学教室。

小学5・6年生対象の事業です。野町、中央、明成の3教室で198名の児童が学んでいます。

今年度は、2月15日の修了式をもって終了しました。



### サイエンスクラブ

1年間の受講生を募集して行う科学教室。

中学1～3年生対象の事業です。

今年度は37名の生徒が所属し、年間10回開催されました。指導員の先生方による実験や夏季合宿の他、自由研究に取り組んだり、大学で最先端の研究を学ぶなどとも充実した活動となりました。



### 算数・数学チャレンジクラブ

1年間の受講生を募集して行う算数・数学の教室。

小学5・6年生と中学生対象の事業です。

今年度は、165名の小学生と93名の中学生が受講しました。

学校の算数・数学とはひとあじ異なり、「地図は何色でぬれるか?」「立方体のおもしろ展開図」「パターンブロックにチャレンジ」のように、制作活動やゲームやパズルなどを通して、楽しんで知恵を絞ります。



#### 【利用者の感想から】

##### 「Mattix」(5年生)

Mattixは、ただ大きい数字を取るだけでなく、相手が大きい数字を取れないようにしていかないと負けてしまうことが分かった。ジャマイカは、( ) をつけたりしてまとまりをつくとよいことが分かった。私は÷を使えなかったので次は使いたい。(小5)

## 科学研究作品展

子どもたちが主に夏季休業期間中に行った研究作品を展示しました。市内小中学校から小学生820点、中学生192点の計1,012点の応募がありました。

期間中、1,915人の参観者で賑わいました。



#### 場所

玉川こども図書館

#### 期間

平成25年  
11月16日(土)～24日(日)

## 科学研究口頭発表会

子どもたちが自分の研究について口頭発表する会で、子どもたちの発表能力を育成し、さらにその発表へのコメントを得ることで研究発展への応用力を育成していこうとするものです。

発表は12タイトル、12人の参加で行いました。

#### 場所

玉川こども図書館

#### 開催

平成25年  
11月23日(土)



#### 【参観者の感想から】

- この作品展に来て、来年もしようという意欲がわいた。また、来年の参考になるような作品もあってよかった。
- 来年の研究は時間をかけて仕上げたい。みんな一生懸命やっていることが分かり、ぼくはがんばろうと思った。
- 子どもたちの熱心さが伝わってきて良かった。身近なものに興味を持って研究しているところがとても良かった。
- とても根気強く実験を繰り返し、書くだけでも大変なのに、とても素晴らしかったです。一つのテーマを何年も調べている子が多いのも驚きました。



#### 【参加者、参観者の感想から】

- このような機会は、子どもたちにとって、とてもよいものであると思います。準備など大変だと思いますが、ぜひ続けていただきたいと思います。(保護者)
- 研究の内容により10分の持ち時間は、かなり短く感じられました。限られた時間に、結果考察を分かりやすく、まとめ、表現するのがかなり大変でした。ともあれ、このような機会は継続していただきたいと願っています。(保護者)
- チャンスがあれば、またたくさんの人の前で今年よりもすごい発表をしてみたいです。(児童)
- 緊張したけど、また発表したい。(児童)

## 広坂子ども科学スタジオ

未就学の年長児から小学校1・2年生の児童を対象に、科学実験や自然観察を毎週土曜日に実施し、今年度も多くの方々に参加いただきました。活動は毎週異なる内容で設定され、午前と午後の2回ずつ開催しています。スタジオでは身近にある物を利用したものづくりや、それを使った科学遊びや科学的な内容についての実験などのほか、年10回程度野外での自然観察も行っています。

内容としては、音・光・まさつなど身の回りの現象、日光写真、動植物、土・化石・宇宙などをテーマとしたいろいろな実験や観察を行っています。また、算数の講座も1回開催しました。これらを通じて、科学や自然のおもしろさ・不思議さを感じ、親しみを持っていただければと願っています。



### 【利用者の感想から】

- ぼくは、声でモールのヘビがグルグル回ったり、とんだりするダンシングスネークがおもしろかったです。あと、風船を何もつなげても声のとどくのが、すごかったです。しんどうで声がつたわるのが、わかりました。(小2)
- 大きな風船やウクレレ、糸電話、おもちゃなど、子どもが興味を持つような実物がたくさん出てきておもしろかったです。糸電話では、素材をいろいろ変えて聞こえ方が変わったのが、子どもには不思議だったようです。これからもたくさん不思議を引き出して下さい。ありがとうございました。(小2保護者)



## 広坂子ども科学スタジオ・オープンスクール



保育園・幼稚園年長児や小学校1・2年生を対象とした校外活動の一環として、平日に広坂子ども科学スタジオで実験教室をおこなっています。児童館や学童保育、子ども会での参加も受けています。

### 【利用者の感想から】

アンモナイト・三葉虫などの歴史を知ることができ、化石の種類も教えていただき、子ども達はとても興味を持ってくれたと思います。今回は親も一緒に参加させてもらったので、楽しみを分かち合えて大変おもしろかったです。ロビーに展示してある品も興味深く、良かったと思いました。

## 交流事業

財団では科学やものづくりへの興味を持っていただけることを期待し、大学やその研究室、企業等の実施する社会貢献活動に協力・共同した科学教室や講演会等を開催しています。

今年度もテクノパーク科学教室（日機装「腎臓はどのようなはたらきをしているの?」、横河電機「温度調査隊になろう～放射温度計をつくらう～」）などを開催し、多くの方に参加いただきました。



## 科学相談

小学3年から中学生を対象に、科学研究をやってみたいが、どのように研究を進めたらよいか分からない、より深く研究をするにはどうしたらよいか等にアドバイスする講座です。

今年は小中学生8名の応募がありました。

### 【利用者の感想から】

- 小学6年生からの継続研究で、去年からの課題にも取り組み、とても良かったです。繰り返し実験・観察ができたので、より確実な結果に近づくことができ、繰り返しやることの大切さがわかりました。(生徒)
- これまで、思いのまま研究を進めていましたが、適切なアドバイスを頂き、一つの事柄を筋道立てて考えることができるようになりました。(保護者)



## 出前科学スクール

おもに保育園や幼稚園、小学校の保護者会などからの申込を受けて行う出前型の教室です。

今年もたくさんの方にご利用いただきました。



### 【利用者の感想から】

空気で遊ぶ  
大変おもしろく、いくつかの実験、自分で工作・自分で試す実験に、全員が生き生きと楽しく学べました。

## 特別事業

### ジュニア科学者養成講座 長期

子ども科学財団既存事業の児童科学教室、サイエンスクラブ、科学研究作品展、科学研究口頭発表会等に参加している子どもたちの中から、優れた科学研究をし、さらに深く研究したいという意欲を持つ子どもたちをバックアップする取り組みを実施しています。

期間は4月末から8月末まで、12単位・36時間を基本に、金沢大学理工学域大学院生に指導をいただき、研究をしてきました。

今年度は、小学生4名、中学生2名の応募があり、4月末から研究を開始しました。市作品展では優秀賞3点、県作品展では特別賞1点、優秀賞2点、また、全国展では1点が入賞しました。



### 算数・数学オリンピック支援講座

算数オリンピックや広中杯などに挑戦する志の高い児童・生徒を支援します。算数・数学チャレンジクラブ員を中心にクラスを編成し、難問にチャレンジしています。今年度は、1名が地方大会に合格し全国大会へ進むことができました。



#### 【クラブ員の感想から】

- 平均だと思って甘く見ていたがとても難しかった。今度は気を付けたい。(小5)
- 内角を使った問題の解き方を知っているはずなのに、意外にアイデアとしてでてこなかった。このような経験をたくさんすることが大事だと思った。(中2)
- あと少しで受験だけれど、受験の時は支援講座で学んだことがすごく役立つので5年間頑張ってきてよかったと思う。(中3)

### 産業・文化・教育から科学を学んでみよう

金沢の文化・産業・教育の中からわたしたちの身のまわりにある科学を見つけ出し、科学だけでなく郷土の素晴らしい一面を学ぶ機会とします。

宗桂会館で、真ちゅうの板に銀線を打ち込み、オリジナルのキーホルダーを制作しました。伝統工芸体験を通して、加賀象眼に潜む科学的要素を楽しく学びました。



この財団だよりに掲載している事業への参加者数などの資料は財団ホームページに資料編として掲載しております。併せてご覧ください。

### 財団では寄附を募集しております

当財団は、主に金沢市に在住する児童生徒等の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的に、「児童生徒等を対象とした課外での科学に関する活動」、「児童生徒等の科学の心を育てるための普及啓発活動」、「科学に関する諸団体や国内外の児童生徒等との交流活動」を柱とした事業を実施しています。また、これら事業の高い公益性が認められ、「公益財団法人」として、平成23年4月より運営を行っております。

これらの事業に必要な資金は様々な団体からの助成金や事業参加者からいただく参加費、そして財団が所有する限りある基金を取り崩して行っております。こうした“教育普及活動”は一朝一夕で成果のあがるもので

はなく、長期にわたり継続していくことでその効果が発揮できるものと認識しております。こうした意義ある事業を今後とも継続発展させ、一人でも多くの子どもたちの科学の芽を育てていくためには、多くの皆様方からの温かいご支援が不可欠と考えております。

また、こうした公益性の高い団体へ行われる“寄附”はその寄附者に対し、税額の控除等が認められています。財団では、こうしたことも踏まえ、多くの方々からのご支持、ご寄附をいただき、もっと多くの子どもたちに事業へ参加いただける環境づくりのため前進していきたいと考えております。

以上、当財団の事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せいただくようお願い申し上げます。

## 公益財団法人 金沢子ども科学財団だより 第11号

平成26(2014)年 3月発行

### 公益財団法人 金沢子ども科学財団

〒920-0913 石川県金沢市西町三番丁16番地

Tel: (076)221-2061 Fax: (076)221-2062

メールアドレス kodomokagaku-z@kanazawa-city.ed.jp

ホームページ <http://www.kanazawa-city.ed.jp/kodomokagaku/>

▶ その他詳しくは、お電話でお問い合わせもしくは、財団ホームページをご覧ください。

金沢子ども科学財団

検索

